

## 4. 植樹指針

### 4.1. 植樹樹種の選択

植樹樹種は、小下沢の現存自生種又は潜在自然植生とみなされる樹種のなかから、将来高木となり上層林冠を構成する樹種を選択。

フィールドの広葉樹率が50%に達するまでは原則として広葉樹(落葉高木)。

### 4.2. 苗木

苗木は自家生産苗木又は購入苗木とする。

購入苗木は、苗木のルーツに注意。関東地域の地場産のものに限定。

植付け苗は、1～2年生の小型苗、規格40～60センチを標準とする。

通常は裸苗。石礫地などの条件の悪いところではジフィーポット苗を使用。

試験的にカミネッコンの植樹実験を実施。

植樹当日までの育木の管理は、特に根を傷めないように乾燥等に注意。

### 4.3. 植樹計画

植樹密度は、1ha当たり2,000本。方形植え(植樹間隔2.2m)を基本とする。

樹種ごとの群状植樹方式を採用。1ユニット100㎡、20本を標準とする。

なお、樹下植樹の場合は、1ha当たり1,000本程度を今後検討。

植樹計画は、あらかじめ植樹区域の図面を作成し、図面上で100㎡ごとのパッチワークに区分し、樹種を割り当てて設計する。

### 4.4. 植樹方法

植樹準備として、植樹設計に基づき植樹位置に樹種名を付けた篠竹を挿して明示。植樹は篠竹の位地に植樹するが、篠竹に付けた樹種名と苗木のラベルの樹脂名が一致した場所に植え付ける。

### 4.5. 植樹の実行(植樹祭の要領)

①篠竹を抜いて篠竹のあったところに、落ち葉や石を取り除いて深さ3cm程度で根が十分入る埴穴を掘る。

②埴穴に少し土を戻して、苗木を根をできるだけ広げて入れる。

③土を埋め戻し、根本を足でよく踏みしめ、苗木を安定させる。苗木の周りに土を寄せ、乾燥防止のため落ち葉などで根本をおおう。

④抜き取った篠竹を苗木の間近にしっかり刺して、その後の下刈りなどの時の目印に。

⑤石礫の多いところでは近くから土を取って極力客土を行う。

⑥ポット苗の場合は、苗をビニールの鉢から取り出して、自然に腐食する材料でできているジフィーポットに「植え替え、ポットのまま植えつける。

#### 4. 6 . 安全上の注意事項

現地は、傾斜地で不整地。バランスを崩して転倒しないように。

不安定な石礫地が多く、落石の危険がある。作業又は歩行時に絶対石を落とさない。上下作業の禁止。

落石には常に注意。石が落ちたら大きな声で合図。